

第49期

中間株主通信

2006.4.1 ▶ 2006.9.30

tansei.shareholders

Tanseisha



表紙写真 olmas
事業推進 東京建物株式会社

 丹青社

Topics

トピックス



オリナスモール エントリーコート 吹き抜け部分

新たな都市型ショッピングモール「olinas」誕生

olinas

東京・墨田区の錦糸町で開発が進められてきた「olinas(オリナス)」が2006年4月20日にオープンしました。

「olinas」は東京建物(株)が事業を推進してきた大規模再開発事業で、オフィス、マンション、商業施設(オリナスコア、オリナスモール)から構成される大型複合施設です。「olinas」という施設名は、錦の

糸がさまざまな模様を「織り成す」ということからネーミングされています。

「olinas」の中核となる商業施設のデザインは米国のRTKLインターナショナルリミテッドが担当し、国外からみた錦糸町をコンセプトにデザインされています。施設のファサードを貫く金色のキャンピーや自由通路に置かれた糸巻きをイメージしたオブジェなどにそうしたコンセプ



オリナスモール モール部分



オリナスモール モール部分



左から 制作本部 第2制作統括部 制作2部 福定 寿幸
 営業本部 第2商空間統括部 営業2部 亀田 昌岐
 (株)丹青IDS 商環境デザイン 2部 内田 誠



インフォメーション

トが表現されています。

当社はこうしたデザインと現実的な設計の間の調整にも協力、デザインの良さを具現化するための提案数も多く行いました。

「olinas」の商業施設の特長は各階ごとにフロアコンセプトを設定しているところにあります。地階に「東急ストア」、1階に「コムサストア」、2階に「島忠」、3階に「ベビーザラス」といったパワーテナントを誘致、各フロアのコンセプトを明確にしたテナントミックスを実現しています。当社は商業施設であるオリナスコアとオリナスモールへ出店している

各テナントと共用部との調和を図るために、店舗の設計指針を作成するとともに、90店舗に及ぶテナントの多くの設計・施工を担当しました。

また、東京建物(株)の100%出資のPM会社である(株)プライムブレイスが運営するインフォメーションやフードパレット、キッズスクエアについては、デザインから設計・施工に至るまでを当社が担当し、これまでに蓄積されたノウハウをふんだんに採り入れました。

「olinas」では年間目標来館客数1,500万人を見込んでいます。

Top Message

トップメッセージ

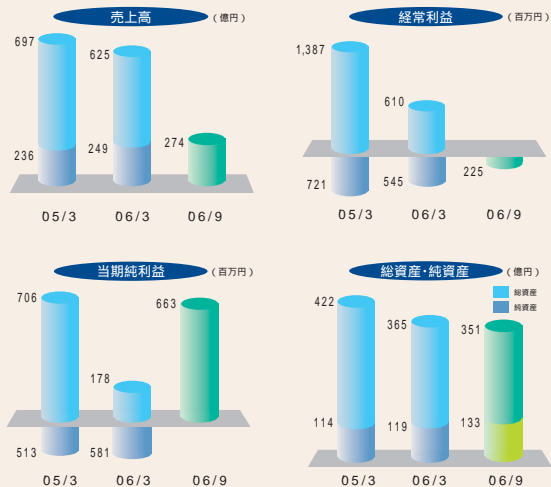


株主の皆様には、
平素より格別のご支援を賜り、
御礼申し上げます。
私たち丹青グループは、
創造性を兼ね備えた専門性の高い
サービスの提供に努めてまいります。

代表取締役社長 **渡辺 亮**

連結財務ハイライト

期 別	(百万円)		
	2006/9	2005/9	2006/3
売上高	27,404	24,921	62,547
営業利益	303	587	591
経常利益	225	545	610
当期純利益	663	581	178
期末			
総資産	35,147	30,488	36,597
純資産	13,332	11,029	11,989
1株当たり			
当期純利益(円)	27.85	26.35	7.41
純資産(円)	540.47	498.70	534.51



(注) 1. 当グループは事業の性質上、上半期に比下半期の売上高の割合が著しく高くなる傾向にあり、その影響が損益計算書にあらわれます。
2. 会計基準の変更により2006年9月期の純資産には、少数株主持分が含まれております。

明るい経営環境のもと、増収増益

当中間連結会計期間における日本経済は、好調な企業収益のもと設備投資が増加し、雇用状況の改善から個人消費も堅調に推移する等、景気は緩やかに回復してまいりました。

当ディスプレイ業界の事業環境におきましては、流通小売業の設備投資や企業の販促関連投資が活発化し、明るさが増してまいりました。

このような状況のもと丹青グループは、お客様の事業のパートナー企業への変革をはかるとともに、制作体制の見直しや原価管理の徹底等を推進し、収益力の向上に努めてまいりました。また、海外事業強化のため、中国に続いてフランス・パリ市にヨーロッパ駐在員事務所を開設し、新たなマーケットの開拓へ向けて、積極的に取り組んでまいりました。

この結果、当中間連結会計期間の売上高は274億4千万円(前年同期比10.0%増)となりました。利益面では、経常損失は2億25百万円(前年同期 経常損失5億45百万円)となりましたが、厚生年金基金代行返上益18億58百万円を特別利益として計上し、中間純利益は6億63百万円(前年同期 中間純損失5億81百万円)となりました。

なお、当グループの売上高は、上半期に比べ下半期に完成する工事の割合が大きいため、上半期と下半期の業績に季節的変動があります。

セグメント別の業績

商業施設分野では「伊勢丹本店」の改装工事を手掛ける等、百貨店の店舗投資や再開業に伴うショッピングセンターの開業が活発化しており、大型店市場の売上は前年同期を上回りました。また、専門店市場および飲食店市場の売上も前年同期を上回りました。この結果、商業施設分野の売上高は168億34百万円(前年同期比22.1%増)、営業利益は10億61百万円(前年同期比84.9%増)となりました。

恒久展示施設分野では、大型施設の完工が下半期に集中してい

ることもあり、博物館市場の売上は前年同期を下回りました。また、「キヤンプラザ梅田」の新装工事等を手掛けたものの、ショールーム市場の売上も前年同期を下回りました。この結果、恒久展示施設分野の売上高は13億66百万円(前年同期比56.0%減)、営業損失は1億97百万円(前年同期 営業利益90百万円)となりました。

短期展示施設分野では、「グッドデザインプレゼンテーション2006」の展示工事および運営業務を手掛けた展示会市場ならびにイベント市場の売上は前年同期を上回りました。しかしながら、博覧会市場の売上は前年同期を下回り、短期展示施設分野の売上高は14億95百万円(前年同期比24.6%減)、営業利益は77百万円(前年同期 営業損失27百万円)となりました。

その他の分野では、「ラウンドワン板橋店」の新装工事を手掛ける等、アミューズメント施設市場の売上は前年同期を上回りました。また、オフィス市場の売上は前年同期を下回りましたが、ホテル市場および空港等のその他専用施設市場の売上が前年同期を上回りました。この結果、その他の分野の売上高は77億7百万円(前年同期比27.6%増)、営業利益は5億80百万円(前年同期比77.9%増)となりました。

株主の皆様へ

当社は、コーポレートガバナンスの確立を経営の重要課題のひとつであると認識し、効率的で透明性の高い経営体制の確立に努め、永続的に成長する企業を目指しています。

また、長期的な観点に立ち資本の充実に努めながら、株主の皆様には収益の状況に応じた配当を行うことを基本とし、この方針に基づき配当性向等を考慮し利益の配分を行っております。当期の中間配当金につきましては、1株につき5円とさせていただきますことといたしました。

今後とも株主の皆様には、末永い当社へのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

Speciality

スペシャリティ

商業施設

こだわりが生んだ新しい筑紫樓

筑紫樓銀座店

2006年10月、東京の銀座7丁目に筑紫樓銀座店がオープンしました。当社が設計・施工に協力いたしました筑紫樓の6店舗目となるこの銀座店は、銀座に店を構えるというオーナーの夢を実現したものです。これまでの筑紫樓のいわば集大成ともいえる位置づけで誕生しました。

当社では約1年を超える時間をかけて、そのデザイン・演出・素材を探するためにオーナーと共に本場の中国で視察をして、徹底的に検討を重ね、これまでの筑紫樓にはなかった、そしておそらく日本でも初めてとなるような装飾を施した飲食店をつくり上げました。

フカヒレの最高の店を目指してつくられた店内には、客席以外に、深海をイメージしてつくられたプレゼンルームがあります。お客様は、その中の冷蔵ケースにディスプレイされた数多くのフカヒレ(吉切鮫・



ファサード

青鮫・毛鹿鮫・メジロ鮫など)の違いを知り、大型の水槽の中を泳ぐ活魚を眺め、そして食べたいものをお客様が決めることができるという新しい演出がなされているのが特長です。

デザインテーマは、「クラシック&ゴージャス」。時代によって消費されない豪華さや格式を、工業製品ではなく人の手によって作られた金箔装飾や壁画により表現しており、これは当社の上海子会社(丹青創藝設計諮詢(上海)有限公司)の協力によって、実現したものです。銀座にありながら、まさに中国本場の雰囲気味わうことのできる特別なレストランができました。



左から
営業本部 第1商空間統括部 営業1部
田中 和範
(株)丹青IDS プランニング・デザイン部
蓮見 淳一
制作本部 第2制作統括部 制作2部
小貫不二男

左 / プレゼンルーム
右 / 個室

恒久展示施設

参加・体験型ミュージアム

がすてなーに ガスの科学館

2006年6月2日、東京・豊洲に東京ガス(株)が事業主体である「がすてなーに ガスの科学館」がオープンしました。20年前に開館した初代「ガスの科学館」から、豊洲駅に一層近い場所でのリニューアルオープンです。

「がすてなーに」のコンセプトは、地球環境やエネルギーの大切さをはじめ、天然ガスの利用が地球環境への負担を減らし、また都市ガスが暮らしや町を支えていることを、子どもたちに伝えたいというものです。その伝え方は、ただ単に展示を見てもらうのではなく、体験を通してガスがどのようなものであるのか、いつ・どこで・どのように使われているのか、そのイメージを伝えようとするものです。

このプロジェクトで特に重視されたのが、子どもたちと一緒に遊び、遊びの中からガスの役割を伝えていくコミュニケーターの役割です。つまり、展示がコミュニケーターの使うメディアであり、ツールである必要がありました。このメディアを通して子どもたちにガスに親しんでもら



「ようこそガカの家へ!」(2階)キッチン・リビング・バスルーム

うことが一番の目的であったからです。

当社としては難しいチャレンジでしたが、新しいあり方を示すことができたと自負しています。子どもたちが自分で考えることができるコンテンツへと昇華させています。

このプロジェクトへはJV(共同企業体)で参画し、当社が幹事会社として設計・制作をまとめあげ、展示全体のプロデュースを担当しました。今後の当社の事業の幅を広げることにもつながっています。



「フカのひみつ」(1階)ガス導管を使った体験コーナー



「フカのひみつ」(1階)
タンク造形に仕込んだ覗き映像



左から
営業本部 第1IMC統括部 営業推進4部 若松 正人
営業本部 クリエイティブセンター クリエイティブ1部
建石 治弘
営業本部 クリエイティブセンター クリエイティブ3部
小山 将史

短期展示施設

「南極体験ができる」展覧会

ふしぎ大陸南極展2006

2006年7月15日から9月3日の51日間にわたり、国立科学博物館、国立極地研究所、朝日新聞社の主催で特別展「ふしぎ大陸南極展2006」が東京・上野の国立科学博物館で開催されました。

「ふしぎ大陸南極展2006」は、1956年11月に第1次南極観測隊が観測船「宗谷」で東京晴海埠頭を出航してから50周年を記念して開催されたものです。これまでに蓄積された観測の成果、南極及び地球環境問題の知識を広く普及し、理解を促進することを目的としています。

“未踏”の地であった南極点を目指した「探検」の時代から、地球環境の変化を知る上で重要な現代の「観測」までを資料や映像で紹介するとともに、現在の南極を可能な限り再現し、「参加・体験」ができる展覧会となりました。

当社は主に施工を担当し、マスタープランの精査、コストコントロールから、展示会場の内装の施工、各種展示演出効果の面で力を発



南極の生き物コーナー



エントランス

揮しました。

主催者側の努力により徹底して「実物」にこだわった展示を目指した結果、映画「南極物語」でも知られるタロとジロの剥製、日本初公開となる南極恐竜の化石、南極から観測船「しらせ」で運んできた雪上車、南極の氷、シロナガスクジラのひげ、火星や月の隕石などの実物が展示され、一部は実際に手に触れることのできる展示も行われました。

また、「実物」の展示が不可能なオーロラや氷山などの表現については、各分野の専門家の意見を参考にしながら制作しました。ここでは当社の演出力が大きな役割を果たしました。

主催者及び関係者の努力の甲斐があり、「ふしぎ大陸南極展2006」は、当初の目標を上回る来場者を迎えることができ、成功裏に終了しました。



左から
制作本部 第1制作統括部 制作1部 久慈 康一
営業本部 第2IMC統括部 営業推進2部 高野 純
営業本部 クリエイティブセンター デザイン部 加藤 剛

その他の施設

アメリカのたこ焼き?

フードテーマパーク 大阪たこ焼きミュージアム

2006年7月、ユニバーサル・スタジオ・ジャパン™(USJ)に隣接するユニバーサル・シティウォーク大阪™(UCW)内にフードテーマパーク「大阪たこ焼きミュージアム」がオープンしました。

UCWは、ハリウッドテイストあふれる街並みに個性的なレストランやショップが揃った3層1,000坪に及ぶ商業施設です。

当社は、関西地区で最大規模の集客力を誇るUSJに隣接するUCWの観光地としての魅力を一層盛り上げる企画として「大阪たこ焼きミュージアム」の内装・デザイン等を提案しました。

USJには日本全国からハリウッドのアトラクションを目当てにお客様が集まります。その行き帰りに通るUCWに、大阪のご当地名物であるたこ焼きの名店を集め、USJでアメリカを堪能されたお客様に今度は気軽に「大阪」を味わっていただくことをコンセプトとしました。

「大阪たこ焼きミュージアム」の設置にあたって最大の問題は、アメリカンテイストの街並みに、どのようにしてアメリカの香りを残しつつ「大阪たこ焼きミュージアム」を完成させるかという点でした。

当社ではオリジナルキャラクターを創り出すなどの手法で純和風のたこ焼きのイメージを払拭し、「大阪たこ焼きミュージアム」をUCWのイメージに溶け込むことのできるフードテーマパークとして誕生させました。

「大阪たこ焼きミュージアム」には大阪の有名なたこ焼き店が5店出店しているほか、美味しいたこ焼きの作り方やたこ焼きの歴史なども分かるミュージアムゾーンも設置されています。

オープン以降たくさんのお客様が押し寄せ、入場待ちの行列が出来るなど大変な盛況を博しています。



店舗が並ぶ通路



たこ焼き戎神社



メインエントランス



左から
(株)丹青IDS
商環境デザイン 2部
福岡 潤子
営業本部 第2IMC統括部
営業推進3部
金山 慎一郎

商業施設



上野松坂屋南館4F



カフェ・ゆとりの空間



NATURAL LAWSON 渋谷猿楽町店

恒久展示施設



Knollショールーム



青森県立美術館ミュージアムショップ



フジ住宅ショールーム「おうち館」
(設計監修：(有)山田経営研究所 山田清)

短期
展示
施設



第40回ジャパンゴルフフェア2006 横浜ゴム(PRGR)ブース (設計:長濱デザイン事務所・コムズ)



グッドデザインプレゼンテーション2006



アルプスショー アルバインブース

その他



ノードダモール岡崎店



シダックス 渋谷シダックスビレッジクラブ



エコフロンティアかさま

Consolidated Financial Statements

中間連結財務諸表

中間連結貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	当中間期末 (平成18年9月30日現在)	前中間期末 (平成17年9月30日現在)	前期末 (平成18年3月31日現在)
(資産の部)	(35,147)	(30,488)	(36,597)
流動資産	26,679	22,832	28,145
現金預金	5,411	3,886	6,004
受取手形・ 完成工事未収入金等	13,432	12,332	17,630
未成工事支出金等	6,906	5,417	3,492
その他	965	1,222	1,043
貸倒引当金	37	26	25
固定資産	8,468	7,655	8,452
有形固定資産	3,366	3,354	3,371
建物・構築物	1,602	1,575	1,589
機械・運搬具・ 工具器具備品	491	445	464
土地	2,749	2,755	2,755
減価償却累計額	1,479	1,421	1,438
無形固定資産	159	271	271
投資その他の資産	4,943	4,029	4,809
投資有価証券	3,116	2,712	3,548
その他	2,024	1,470	1,463
貸倒引当金	197	152	202
資産合計	35,147	30,488	36,597

POINT

売上債権である受取手形・完成工事未収入金等が前年同期に比べ増加した要因は、当中間期の売上高が堅調に推移したためです。

科 目	当中間期末 (平成18年9月30日現在)	前中間期末 (平成17年9月30日現在)	前期末 (平成18年3月31日現在)
(負債の部)	(21,815)	(19,453)	(24,599)
流動負債	20,659	17,253	21,693
支払手形・工事未払金等	11,079	9,553	13,780
短期借入金	3,700	4,473	3,970
一年以内償還予定の社債	300	300	600
未成工事受入金	3,654	1,348	1,142
賞与引当金	924	831	759
役員賞与引当金	23	—	—
完成工事補償引当金	45	50	43
工事損失引当金	64	36	41
その他	868	660	1,356
固定負債	1,155	2,199	2,906
社債	—	300	900
退職給付引当金	38	1,444	1,521
役員退職慰労引当金	413	441	475
その他	703	13	8
(純資産の部)	(13,332)	(11,035)	(11,998)
株主資本	12,508	10,130	10,922
資本金	4,001	3,423	3,497
資本剰余金	3,999	3,423	3,497
利益剰余金	4,538	3,305	3,955
自己株式	29	23	27
評価・換算差額等	817	899	1,067
その他有価証券評価差額金	808	897	1,061
為替換算調整勘定	8	2	6
少数株主持分	6	5	8
負債純資産合計	35,147	30,488	36,597

(注)会計基準の改正に伴い、従来の「資本の部」の表示方法が変更されております。前中間期末、前期末の表示については、当中間期末の基準に組み替えて表示しております。

POINT

転換社債型新株予約権付社債の転換およびストックオプションの権利行使により、資本金および資本剰余金は前年同期に比べ増加しました。

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

中間連結損益計算書

(単位:百万円)

科 目	当中間期	前中間期	前 期
	(自平成18年4月1日 至平成18年9月30日)	(自平成17年4月1日 至平成17年9月30日)	(自平成17年4月1日 至平成18年3月31日)
売 上 高	27,404	24,921	62,547
売 上 原 価	23,546	21,727	54,333
売 上 総 利 益	3,857	3,193	8,214
販売費及び一般管理費	4,161	3,780	7,623
営業利益又は営業損失()	303	587	591
営 業 外 収 益	137	104	203
営 業 外 費 用	58	61	183
経常利益又は経常損失()	225	545	610
特 別 利 益	1,874	109	458
特 別 損 失	416	335	368
税金等調整前中間(当期)純利益 又は税金等調整前中間純損失()	1,232	771	700
法人税、住民税及び事業税	32	68	209
過年度法人税、住民税及び事業税	—	—	110
法人税等調整額	538	261	196
少数株主利益又は 少数株主損失()	2	2	5
中間(当期)純利益 又は中間純損失()	663	581	178

POINT

百貨店、大型ショッピングセンター向けの売上高が堅調に推移したため、当中間期の売上高は前年同期に比べ増加しました。

POINT

厚生年金基金代行返上益を計上したため、当中間期の特別利益は前年同期に比べ増加しました。

中間連結株主資本等変動計算書

当中間連結会計期間(自平成18年4月1日至平成18年9月30日)

(単位:百万円)

	株主資本					評価・換算差額等			少数株主 持分	純 資産 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己 株式	株主 資本 合計	その他 有価証券 評価差 額	為替換 算調整 勘定	評価・ 換算差 額等合計		
平成18年3月31日残高	3,497	3,497	3,955	27	10,922	1,061	6	1,067	8	11,998
中間連結会計期間中 の 変 動 額										
新 株 の 発 行	503	502			1,006					1,006
利益処分による剰余金の配当			67		67					67
利益処分による役員賞与			13		13					13
中 間 純 利 益			663		663					663
自己株式の取得				2	2					2
自己株式の処分		0		0	0					0
株主資本以外の項目 の中間連結会計期間 中の変動額(純額)						252	1	250	1	251
中間連結会計期間中 の 変 動 額 合 計	503	502	582	2	1,586	252	1	250	1	1,334
平成18年9月30日残高	4,001	3,999	4,538	29	12,508	808	8	817	6	13,332

中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科 目	当中間期	前中間期	前 期
	(自平成18年4月1日 至平成18年9月30日)	(自平成17年4月1日 至平成17年9月30日)	(自平成17年4月1日 至平成18年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	60	1,710	3,743
投資活動によるキャッシュ・フロー	122	49	399
財務活動によるキャッシュ・フロー	532	2,121	1,692
現金及び現金同等物に係る換算差額	1	3	8
現金及び現金同等物の増加・減少()額	592	457	1,660
現金及び現金同等物の期首残高	6,004	4,343	4,343
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	5,411	3,886	6,004

POINT

受注が堅調に推移し、未完工事支出金等が増加したものの、前期末未完物件の回収が進み、受取手形・完成工事未収入金が増加したため、営業活動によるキャッシュ・フローは60百万円の収入となりました。

Corporate Data

会社情報

(2006年9月30日現在)

会社の概要

商号	株式会社丹青社
設立	1959年12月25日
資本金	4,001,116,657円
上場	東京証券取引所市場第一部
従業員数	796名(連結 1,229名)
主要事業内容	国内外見本市、博覧会、展覧会、百貨店、ショッピングセンター、専門店、一般小売店、ホテル、レストラン、ショールーム、オフィス、博物館、科学館等の調査、企画、設計、施工、監理、運営管理

事業所

本社	東京都台東区上野5丁目2番2号 Tel. 03(3836)7221
札幌支店	札幌市中央区北1条西3丁目3番地(札幌MNBビル) Tel. 011(271)0725
東北支店	仙台市青葉区本町2丁目1番7号(本町奥田ビル) Tel. 022(264)0764
新潟支店	新潟市万代1丁目1番32号(プリオール万代) Tel. 025(241)4522
名古屋支店	名古屋市中区錦3丁目24番17号(日本生命栄町ビル) Tel. 052(957)7531
関西支店	大阪市北区堂山町3番3号(日本生命梅田ビル) Tel. 06(6313)5200
九州支店	福岡市博多区博多駅前3丁目25番24号(八百治ビル) Tel. 092(472)1901
沖縄支店	那覇市久米2丁目4番14号(JB・NAHAビル) Tel. 098(951)1115



役員

代表取締役社長	渡辺 亮
取締役副社長	萩原 亞海
取締役専務	青田 嘉光(株式会社丹青研究所代表取締役社長)
取締役常務	鈴木 義隆(経営管理本部長兼経営統括部長)
取締役常務	北原 聡(制作本部長)
取締役常務	伊藤 芳晃(営業本部長、丹青創藝設計諮詢(上海)有限公司 董事長、北京丹青嘉輝建築裝飾有限公司 董事長)
取締役	澤田月来男(ストアエンジニアリング事業部長兼新事業支援室長、株式会社丹青モールマネジメント代表取締役社長)
常勤監査役	重政 俊夫
監査役	小松 由蔵
監査役	山本 智督
監査役	松田 良行
上席執行役員	鈴木 清明(経営管理本部事業管理統括部長兼事業推進部長)
上席執行役員	石井 款(制作本部TLCCセンター長)
上席執行役員	高橋 貴志(制作本部第2制作統括部長)
執行役員	長山 隆(制作本部第3制作統括部長兼技術室長)
執行役員	斉藤 幹雄(営業開発センター長)
執行役員	森 俊憲(プロジェクト推進室長兼プロジェクト推進部長)
執行役員	橋本 俊朗(営業本部東日本・中部近畿ブロック長兼関西支店長)
執行役員	伊藤 文雄(ストアエンジニアリング事業部副事業部長)
執行役員	家入 幸弘(営業本部西日本ブロック長兼九州支店長)

(注) 印は執行役員を兼務する取締役であります。

連結対象会社

株式会社丹青TDC
株式会社丹青ビジネス
株式会社丹青研究所
株式会社丹青ディスプレイ
株式会社丹青インテグレイテッドデザインスタジオ(丹青IDS)
株式会社丹青シグネクス
株式会社ゲーム
株式会社丹青モールマネジメント(TMM)
株式会社丹青ヒューマネット
丹青創藝設計諮詢(上海)有限公司
北京丹青嘉輝建築裝飾有限公司

Stock Data

株式情報

(2006年9月30日現在)

株式の総数

発行可能株式総数72,000,000株

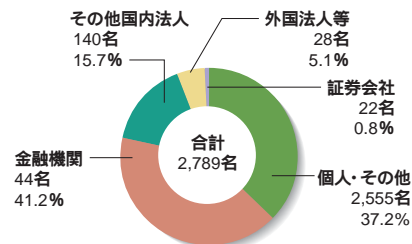
発行済株式総数24,724,857株

株主数2,789名

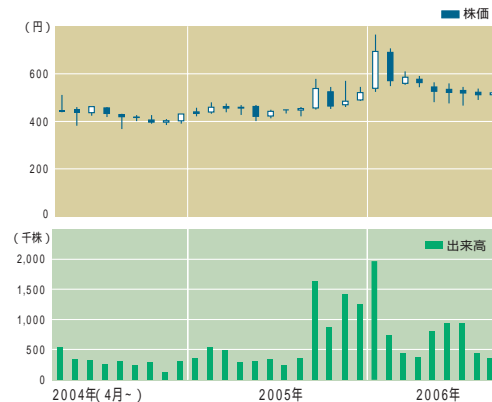
大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日興シティ信託銀行株式会社(投信口)	1,314	5.3
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,211	4.9
丹青社従業員持株会	1,208	4.9
丹青社取引先持株会	1,198	4.8
株式会社三菱東京UFJ銀行	1,086	4.4
株式会社みずほ銀行	1,078	4.4
株式会社三井住友銀行	1,028	4.2
第一生命保険相互会社	978	4.0
日本生命保険相互会社	926	3.7
有限会社渡辺興産	558	2.3

所有者別状況



株価



株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
単元株式数	1,000株
基準日	定時株主総会 3月31日 期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
同連絡先(郵送先)	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 Tel. 0120-232-711 (通話料無料)
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店 野村證券株式会社 全国本支店
公告掲載URL	http://www.tanseisha.co.jp/



当社のHPでは最新のIRニュースや株式情報をご覧いただけます。
 また、広報誌のHP「tansei.net」では、
 空間・建築に関する様々な情報を発信しています。
 ぜひアクセスしてみてください。

<http://www.tanseisha.co.jp>



社名の由来 「丹青」とは、中国から伝わった言葉であり、古くは画家のことを指した。唐の詩人、杜甫の七言古詩にも使われている。

丹青知らず、^お ^{まさ} ^{いた} ^ふ ^き ^わ ^{おい} ^ふ ^{うん} ^{ごと}
 老いの将に至らんとするを。富貴は我れに於て浮雲の如し。(杜甫「丹青引、曹將軍覇に贈る」)
 絵を描くことに熱中して歳をとることも忘れ、世の中の富貴、栄華などは、浮雲のように頼りないものと思っている。

撮影者：安達治・新良太・池田敢・ヴィスタジャパン 廣崎節雄・奥村浩司・工藤明敏・車田保・近藤真
 築地久・ナカサ&パートナーズ・日本グラフィック・馬場祥光・林巧・三富純・柳内正義

R100
 古紙/リブ配合率100%
 再生紙を利用しています